

CSRマネジメントシステム

社会の一員として、当社の果たすべき役割を認識し、CSR活動を円滑に推進するため、グループで意思統一を図り、推進体制を整備しています。

CSRの考え方

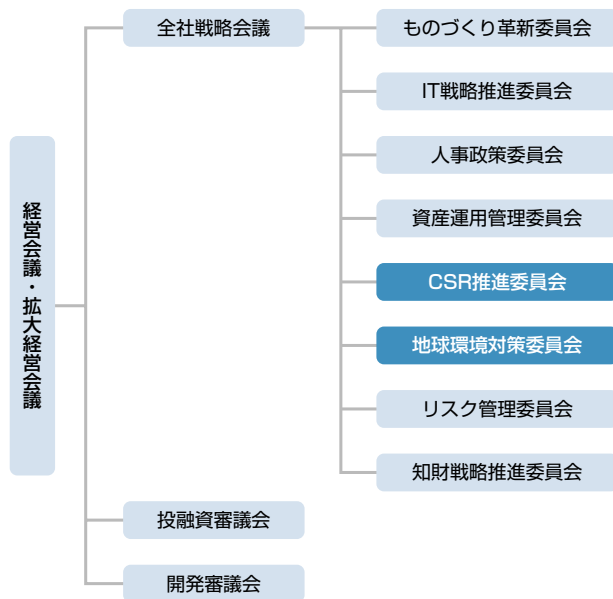
当社は、企業理念の中に「豊かな社会の発展に貢献する」とうたわれている通り、創立当初から企業としての社会的責任を果たすための取り組みを行ってきました。業界他社に先がけた地球環境への取り組み、長年にわたる地域貢献など、多くの活動が定着したものとなっています。

CSR推進体制

全社戦略会議の下部組織として、本社機能に即した委員会を設置し、企業価値向上に向けた審議機関として活動しています。

具体的な活動として、サプライヤーなどを含めた「ものづくり革新委員会」、情報セキュリティなどを含めた「IT戦略推進委員会」、雇用などを検討する「人事政策委員会」、資産運用を検討する「資産運用管理委員会」、CSR推進活動を取りまとめる「CSR推進委員会」、地球環境保全を推進する「地球環境対策委員会」、リスクマネジメントを行う「リスク管理委員会」、特許などの知的財産を取りまとめる「知財戦略推進委員会」があり、それぞれの委員会を中心にニッパツグループのCSR活動を体系的に推進しています。

● 経営会議と各委員会



CSR推進活動

全社戦略会議の直下に置かれた委員会はそれぞれ、幅広い活動を行うため、関連する様々な部門長をメンバーに選出し、活動の充実に向けた活発な討議を行っています。

それぞれの委員会で討議された活動方針に基づき、担当部門が中心となって、各事業所やグループ会社などとも連携を図りながら推進しています。またサプライヤーはもとより、地域行政やNPO団体とも協力しながら、それぞれの地域に根ざした活動を積極的に展開しています。



CSR推進委員会

VOICE

社会の変化に敏感でありたい

10年間で見ると、社会の意識の変化とともに、ステークホルダーからの企業への社会的要請も大きく変化しています。CSRの範囲は、環境保全活動一つをとっていてもグループ会社だけでなく、仕入先を含めたサプライチェーンへと拡大しています。

また、ニッパツグループが事業展開している地域の一つであるアジアでは、急速な発展にともない、今後、企業に対する様々な社会的要請が強まると予想されます。

CSR推進担当者として常に社会の変化に敏感になり、活動を推進していきたいと思っています。

経営企画部主管
阿部 匡



ガバナンスとコンプライアンス

CSR活動を遂行するため、ガバナンス体制の整備とコンプライアンスの徹底を図っています。

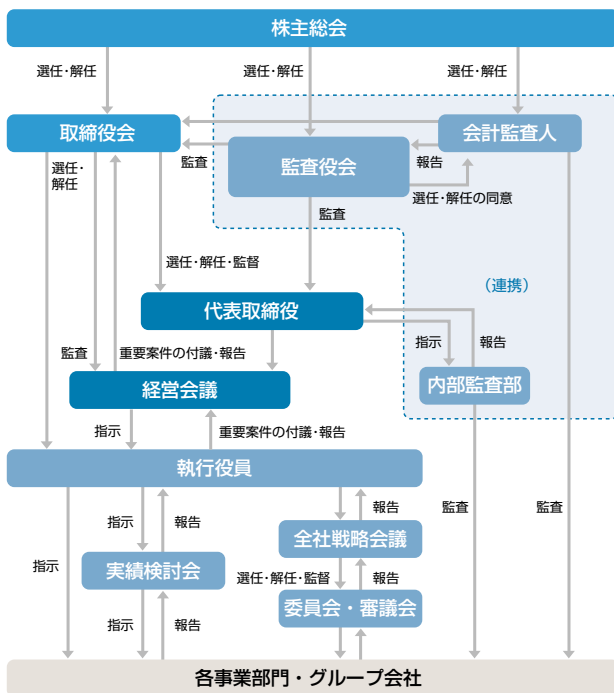
コーポレート・ガバナンス

意思決定機関としては株主総会、取締役会がありますが、迅速な意思決定を行うため、2005年度より執行役員制を採用し、取締役は8名となりました。

審議機関としては、経営会議、各委員会がありますが、特に経営会議は少数で意見交換できるように取締役および常勤監査役で構成しています。監査機関として監査役会は、現在4名の監査役のうち、従前から2名の社外監査役が就任しています。内部統制の仕組みについては、内部監査部を設置し、業務の適正性と効率性の観点から内部監査体制の充実を図っています。

また、顧問弁護士からは、顧問契約に基づき必要に応じたアドバイスを受けています。

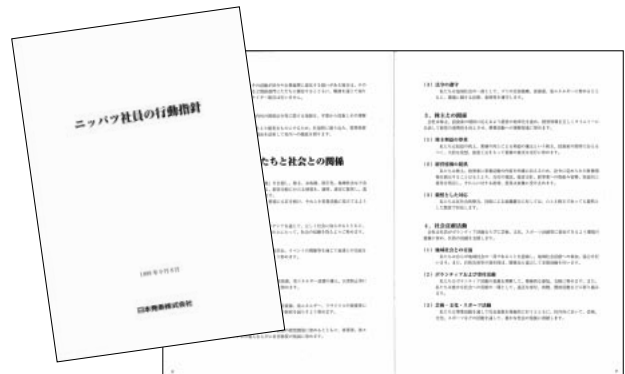
●ガバナンス体制図



コンプライアンス（法令順守）

コンプライアンス推進体制については、常に社会から高い信頼を得ることを目的として、コンプライアンス最高責任者・推進責任者・指導責任者を選任し、周知徹底を図っています。

コンプライアンスの浸透については、「ニッパツ社員の行動指針」に基づき、新入社員、管理者、基幹職のそれぞれの集合研修で教育を実施しているほか、e-ラーニングや社内報などを通じて周知徹底を図っています。



ニッパツ社員の行動指針

VOICE

コンプライアンスの周知徹底を推進する

従来、社内の複数部署で行っていた法務に関する業務を集約して、2007年6月末に法務部を新設しました。主な業務内容は法的紛争、訴訟対応、契約書の作成・照査、グループ会社の法務統括、事業戦略法務サポートなどです。また法務に関わる従業員の個人的な問題の窓口として相談に応じているほか、e-ラーニングや社内報を通じてコンプライアンスの推進を図っています。ニッパツだけでなく、グループ全体の法務リスクマネジメントを遂行する「頼りにされる存在」をめざしています。

法務部長
山崎 孝之



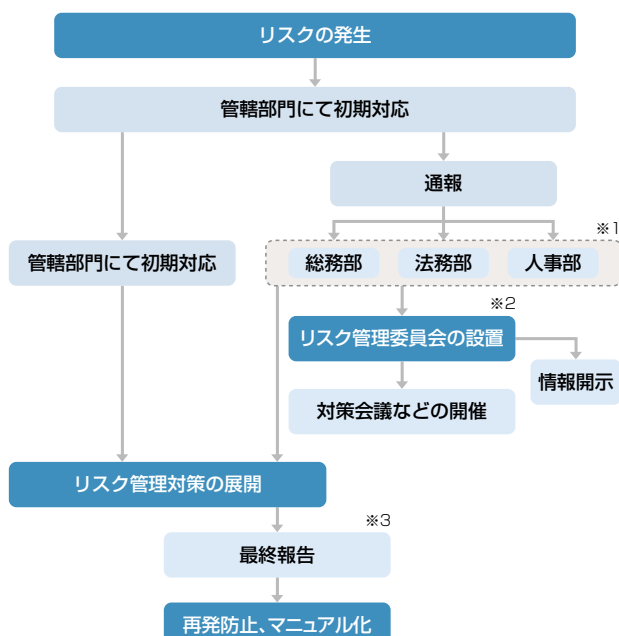
リスクマネジメント

当社を取り巻く様々なリスクに的確に対応するため、リスク管理体制を整備するとともに、すべての取引に関する情報セキュリティの確保に取り組んでいます。

リスク管理体制

法的リスク、財務リスク、情報漏えいリスク、災害リスクなど、当社を取り巻く様々なリスクに的確に対処するため、社内にリスク管理委員会を設けています。委員会では、災害発生などの緊急時の対応、組織・ルールづくりといった体制整備など、活発な活動を行っています。今後も継続してリスクマネジメントの向上を図っていきます。

● リスク発生時のフロー・チャート



情報セキュリティの確保

当社およびグループ各社は、お客様やサプライヤーとの取引における情報の流出防止について、2003年12月にその基本となる「セキュリティマネジメントポリシー」を制定しました。この対策基準、実施手順の運用により情報の保護に努めています。

ポリシーの適用者は、当社および関連会社の役員、従業員、外務委託業者の従業員（派遣社員、アルバイトを含む）として

度を評価、分類し、適切な管理を行い、機密漏えい、破壊、改ざん、不正利用などを予防しています。

VOICE

各部門と協力してリスクマネジメントを推進する

企業を取り巻く環境は刻々と変化しており、新しいリスクも生まれています。当社および当社グループで起こる可能性のあるリスクに対して、発生の予防もしくはリスクを最小限に抑えるよう取り組むことが重要です。

リスクマネジメントは、一度マニュアルをつくってしまえば終わりというものではありません。定常的にPDCAサイクルを回し、レベルアップを図ることが必要です。また全社レベルで推進する項目ばかりでなく、各部門で対処しなければならないことも数多くあります。リスク管理委員会を中心に各部門と協力して、リスクマネジメントを推進していきたいと考えています。

総務部主査
大久保 誠範



情報セキュリティの仕組みづくりと定着を図りたい

情報セキュリティは、社内の重要な情報を安全かつ安定して利用できるビジネス環境実現の基盤となるものです。世界中のお客様に安心してお付き合いいただける企業となるには、情報セキュリティ対策が徹底され、グループ会社すべてを同じレベルにしなければなりません。ニッパツは、全社でe-ラーニングを活用して、情報セキュリティ、個人情報保護、コンプライアンスに関する教育の実施により、従業員の意識改革に努めてきました。

今後はIT統制や業務フローへの落とし込みなど、さらなる仕組みづくりを進め、定着を図ります。

株式会社ニッパツサービス
情報システム部長
五十嵐 祐二

